

平成 21 年度第 1 回島根県公立大学法人評価委員会 議事要旨

1. 日時

平成 21 年 7 月 23 日 (木) 14:00 ~ 16:40

2. 場所

島根県市町村振興センター 中会議室

3. 出席者

(委員)

山本委員長、服部委員、三島委員、宮脇委員(下森委員欠席)

(公立大学法人島根県立大学)

本田理事長、山本副理事長、中島事務局長、三島総務課長、勝部財務課長
松井主任

(事務局)

加松総務部長、藤原総務課長、西村学事文書GL、吉川主任

4. 議題等

(1) 委員長選任

(2) 会議公開・非公開の決定

(3) 議事

ア) 平成 20 年度公立大学法人島根県立大学業務実績報告について

イ) 平成 20 年度公立大学法人島根県立大学業務実績評価について

5. 会議の概要

(1) 委員長選任

委員の互選により山本委員が委員長に選任された。

(2) 会議公開・非公開の決定

事務局から、本日の会議については、会議資料として法人から提出された財務諸表があり、この財務諸表については県が承認した後に初めて公表されるべきものであること、また、法人評価に関連し、委員の率直な意見をいただく必要があることから非公開が適当との発言があった。このことについて委員に諮られたところ了承された。

(3) 議事

ア) 平成 20 年度公立大学法人島根県立大学業務実績報告について

公立大学法人島根県立大学の本田理事長及び山本副理事長から資料 2 に基づき、平成 20 年度の公立大学法人島根県立大学の業務実績について説明が行われた。また、説明の後、評価委員と本田理事長及び山本副理事長との間で質疑応答が交わされた。

本田理事長からは、大学の現況等についての説明と、特記事項と課題について説明があった。

< 本田理事長説明内容の概要 >

・懸案であった大学院の 2 研究科の統合再編を果たし、研究指導体制の強化及び地域と北東アジアを結びつける独創的教育課程を編成した。新規入学生の

- 定員は前期・後期課程とも充足した。社会人を4名受け入れた。
- ・3キャンパス合同の進路指導懇談会の開催、入試動向調査の結果を踏まえたプロモーション、高校訪問の徹底等により、高い志願倍率を維持した。
 - ・キャリア支援アドバイザーを1名増員し、就職サポート体制を強化した。系統的なキャリア教育や学生支援GPの活用により、高い就職率を実現した。
 - ・外部資金を獲得するための外部資金対策委員会において、主に文部科学省の大学教育改革支援プログラム(GP)の獲得を目指して情報収集や申請に向けた進行管理を行った。その結果、8件の応募を行い、1件採択されたところである。科学研究費補助金については学長裁量経費の採択を受けた教員には外部資金の申請を義務づけ、その結果高い新規採択率となった。こうした外部資金獲得努力により自己財源比率を更に向上させた。
 - ・北東アジアに係る研究、シンポジウム、共同研究会の開催等により北東アジアにおける知の拠点として着実に前進している。市民研究員という独創的な制度を設け大学院の研究へ市民参加いただいている。
 - ・今後の課題としては、新たな大学構想の確立ということで、大学憲章を制定する必要性を感じている。その他、18歳人口の減による学生の確保が困難となることへの対応、地域ニーズに応じた地域貢献の強化、自己財源比率の更なる向上、3キャンパスの一体感の醸成等の課題がある。

〔本田理事長・山本副理事長 退席〕

イ)平成20年度公立大学法人島根県立大学業務実績評価について

事務局から、資料1及び関係資料により業務実績評価について説明があった。

また、資料3により、公立大学法人島根県立大学から提出された業務実績報告書のうち数値評価項目の自己評価と、事務局で検証した結果が示された。

さらに、資料4により、事務局から評価のポイントが示され、一部の評点について変更すべき点が見られるとの説明があった。

委員の意見を踏まえた評価結果のまとめ方については、委員長に一任された。

<評価結果のポイントに対する主な委員意見>

- ・評価基準はなるべく定量的な指標を設定しないと評価しにくいし、結果がわかりにくい。
- ・事務局の原案どおりの評価でおおむねよいが、大学院の再編統合、競争的資金獲得の取組については、顕著な成果として評価する。

以上